



2014 (平成26) 年5月29日 発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: eces-manager@ecesj.com HP: http://www.ecesj.com/

〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 藤田乾一, 事務局長 小川鶴蔵)

1	はじめに	1
2	第18回東京大会開催案内	2
3	第9期 応用生態工学会委員会委員決まる	12
4	行事開催報告 国際シンポジウム	15
5	行事開催予定	17
5.1	第6回 全国フィールドシンポ in 高知	17
5.2	応用生態工学札幌セミナー	19
5.3	応用生態工学会第2回北信越事例発表会	19
5.4	2014年度 年間行事予定	22
6	書評 水辺と人の環境学 (上、中、下)	24
7	事務局より	28

1 はじめに

2014年度最初のニュースレターです。

今回のニュースレターでは、第18回東京大会の開催案内を中心にお届けします。

また、新しく第9期の応用生態工学会各委員会委員が決まったことをお知らせします。委員会委員の任期は2014年4月1日から2年間です。

記事には2014年度の行事開催案内などをお届けします。

さて、2013年度で第3次中期計画期間が終了しました。2014年度は、今後の学会活動の方向を議論する新しい中期計画策定作業が始まる年度でもあります。応用生態工学会が1997年に発足して以来17年を経過し、ここに来て発足以来の会員と新入会会員との入れ代わりが進んでいます。学会創設時の目標である生態学と土木工学の関係者が共同して「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」のいっそうの推進が図られるために、会員の参加を得て、新しい役員、委員会委員を中心に活動が始まります。

2 第18回東京大会開催案内

応用生態工学会 第18回大会開催案内(東京大会)

2014年(平成26年)9月18日(木)～9月21日(日)

第18回総会・研究発表会・自由集会・分科会(特定テーマ・セッション)・公開シンポジウム・エクスカージョン

応用生態工学会では、2014年(平成26年)9月18日(木)～9月21日(日)に東京都八王子市にて、第18回大会を開催します。

本大会実施に向け、大会参加と研究発表の受付を開始します。研究発表では、研究成果の報告だけでなく、現場で抱えている課題や問題提起、プロジェクト提案等を自由に発表できます。また、今大会では、前回第17回大会と同様に、テーマを絞って議論ができるよう、従来の口頭発表に加えテーマを特定した分科会や自由集会を準備したいと考えています。議論したいテーマをお持ちの方からのユニークな分科会・自由集会の企画・提案を期待するとともに、多くの会員の皆様の発表参加をお待ちしております。

9月20日(土)には、公開シンポジウム『地下を流れる水と応用生態工学の接点ー健全な水循環の確保に向けてー』を開催します。特別講演として、地中海沿いの河川をフィールドとしてヨーロッパアルプスから地中海への水や土砂の動態に精通しているトレント大学(イタリア)のWalter Bertoldi博士から流域スケールでの地下水の動態についてお話いただく他、現在企画調整中です。このシンポジウムは河川整備基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

9月21日(日)には、エクスカージョンを企画中です。

なお、本大会は、土木学会継続教育(CPD)プログラム認定に申請予定です。

1. 大会概要

【日程】

第1日目 9月18日(木): 研究発表(ポスター), 分科会, 自由集会

第2日目 9月19日(金): 研究発表(口頭), 分科会, 自由集会, 懇親会

第3日目 9月20日(土): 午前: 役員会・総会等, 午後: 公開シンポジウム

第4日目 9月21日(日): エクスカージョン

ースケジュールは、変更することがあります。詳細なスケジュールは、ホームページ(8月上旬), ニュースレター(No.64発行)でご案内します。ー

【会場】

研究発表・総会・公開シンポジウム: **首都大学東京 南大沢キャンパス 12号館**

住所: 東京都八王子市南大沢1-1

電話:042-677-1111(代表)

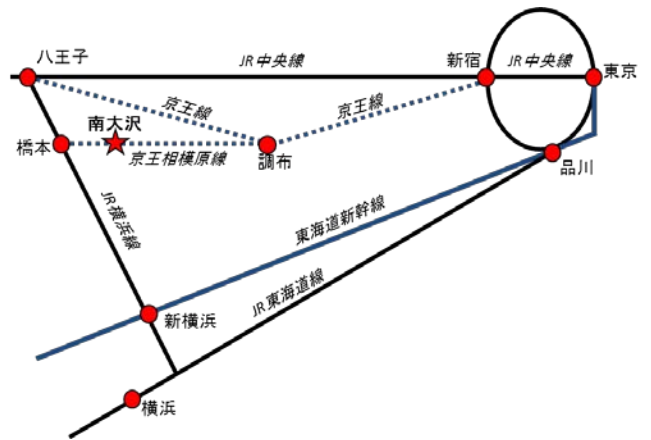
URL:http://www.tmu.ac.jp/university/campus_guide/access.html

交通:京王電鉄相模原線「南大沢」駅下車(特急以下すべ

での列車が停車します)

- 「新宿」から約30～40分(京王線経由)
- 「東京」から約1時間(JR中央線、「新宿」乗換え,京王線経由)
- 「新横浜」から約55分(JR横浜線、「橋本」乗換え,京王線経由)

★「南大沢」駅から大学まで徒歩5分(会場の12号館までは駅から徒歩15分程度)



2. 公開シンポジウム

【テーマ】

地下を流れる水と応用生態工学の接点—健全な水循環の確保に向けて—

【企画のねらい】

地下を流れる水は、地上や海底に湧き出た場所に特殊な生息場を作り出す。そのような特殊な場に依存する生きものも少なくない。また、水が地下を移動することで、河川や海域の物質循環にも大きな影響を及ぼすことが知られるようになってきた。一方、人間活動の影響は、水質・土壌汚染、地下浸透による水源涵養機能の低下、水域と地下の健全な水循環の阻害などを通じて、湧水が作り出す生態系に影響を及ぼしている。

これに対し、近年の安定同位体を用いた研究やシミュレーション・可視化技術の発展などがあり、地下を流れる水のマネジメント、健全な水循環のあり方が検討できるようになってきた。そこで、地下を流れる水の流れやその生態学的な機能についての研究事例、知見を共有し、土木技術と生態学の融合をめざす応用生態工学との接点を明らかにするとともに、マクロスケールな水循環とローカルな生態学的な現象をどのように絡めるか等の課題について議論を行い、これらを通じ、今後の研究の進展と自然再生事業等への応用の出発点となることを目指す。

【プログラム(案)】

13:00 開会 趣旨説明

13:10 招待講演 Walter Bertoldi 博士(トレント大学,イタリア)

谷口 真人教授(総合地球環境学研究所研究推進戦略センター連携推進部門長)

森 誠一(岐阜経済大学地域連携推進センター長・経済学部教授)

他、調整中

15:30 パネルディスカッション

コーディネーター:横山勝英(首都大学東京 都市環境学部准教授)

パネリスト:Walter Bertoldi 博士(トレント大学,イタリア)

谷口 真人教授(総合地球環境学研究所研究推進戦略センター連携推進部門長)

森 誠一(岐阜経済大学地域連携推進センター長・経済学部教授)

他、調整中

16:30 終了予定

【会場】

首都大学東京 南大沢キャンパス 12号館 201教室

3. 研究発表募集

応用生態工学会大会における研究発表の受付を開始します。発表方法は、「ポスター発表」と「口頭発表」とします。下記要領に基づき応募して下さい。

〔1〕研究発表内容

応募できる研究発表の内容は、応用生態工学に関する研究や事例の報告およびその他です。発表の内容が、現場のさまざまな事業・活動にどのように応用できる知見であるかに触れていただければ、研究報告が予報的な内容であってもかまいません。

〔2〕発表方法

応募に当たっては、「ポスター発表」か「口頭発表」のいずれを希望するか明記して下さい。応募状況によっては、実行委員会にて変更をお願いする場合があります。

〔3〕発表時間

口頭発表の発表時間は、1課題当たり15分(発表12分、討論3分)程度で、申込数により決定します。

〔4〕研究発表申込 6月30日(月) 17:00までを厳守して下さい。

研究発表を申し込まれる方は、電子メールに下記の申込記入事項を記載し、申込先のメールアドレスに宛ててお送り下さい。

研究発表申込先：tokyo_18th@ecesj.com

<申込記入事項>

1. 発表者名(フリガナ)および連名者名(フリガナ)と各々の所属(会員番号)
(会員番号：連名者が非会員である場合、番号は不要)
2. 研究発表題目
3. 連絡先(〒,住所,氏名,TEL,FAX,E-mail)
4. 研究発表概要(和文200字程度)
5. 希望する発表形態(「ポスター発表」または「口頭発表」)
6. 研究報告,事例報告,その他の別
7. キーワード(調査地域・調査対象を含め5つ程度)

[調査地域(例)]

河川,湖沼,ダム貯水池,汽水域,海域,森林,水田,畑地,道路,都市,農村等

[調査対象(例)]

生態系・景観,陸上植物,陸上動物,水生植物,底生動物,プランクトン,鳥類,魚類等

8. 発表賞の審査対象となる希望の有無

発表賞の審査対象になることを希望するか否かをお知らせ下さい。

なお、審査対象要件は以下のとおりです。

- 1) 若手研究者（学部学生，大学院生，ポスドク等の若手会員）
- 2) 現場技術者または行政担当者。

※研究・事例の別を問わず，過去に最優秀発表賞の受賞歴がある方は発表賞の審査対象になることはできません。

提出いただいた概要をもとに発表の振り分けを開始いたしますので，簡潔かつ具体的な研究内容を可能な限り明示して下さい。

後日，事務局より受付および「ポスター発表」か「口頭発表」の確認連絡をいたします。

〔5〕研究発表要旨の原稿の提出は7月18日（金）17:00 までを厳守して下さい。

研究発表者（口頭発表およびポスター発表いずれも同じ）は，研究発表要旨原稿（A4版2枚 or 4枚）を期日までに事務局へ提出して下さい。原稿は下記の要領に従って作成して下さい。

なお，ポスター作成要領，口頭発表要領および関連スケジュールを8月上旬に応用生態工学会ホームページにアップロードする予定です。

＜研究発表要旨原稿作成要領＞

研究発表要旨については査読を行いません。要旨集にもその旨を記載いたします。

- ・ A4版用紙，縦位置，2枚または4枚。
- ・ 左右15mm以上，上下18mm以上の余白。
- ・ 横一段組み，中央に「講演題目」を和文にて，14ポイント程度の文字，2行以内で記入。
- ・ 題目の下1行空け右寄せで「講演者名，連名者名，各々の所属」を，12ポイント程度の文字で記入。
- ・ 本文は，10.5ポイント・明朝。
- ・ 原稿はそのまま印刷できるイメージのPDFファイルとして作成し，E-mailに添付して tokyo_18th@ecesj.com 宛にお送り下さい。なお，印刷はモノクロです。

〔6〕研究発表者資格

研究発表者は，応用生態工学会の正会員，学生会員および賛助会員法人に所属する個人とします。なお，連名者については会員・非会員を問いません。但し，研究発表者が学生の場合，連名者に会員がいれば可とします。

〔7〕発表賞

ポスター発表，口頭発表のそれぞれを対象とします。9月20日（土）午前中に開催される総会終了後に表彰を行います。

Call for Presentations

Submission of presentations is now open for the 18th Annual Meeting of the Ecology and Civil Engineering Society (ECES) in Tokyo. Categories of presentations are either research reports, case studies or other topics in the field of ecology and civil engineering. Two types of presentation, poster or oral, are acceptable in English along with Japanese. Please submit your presentation in line with the following guidelines.

[1] Topics

Acceptable presentations should be research reports and case studies on topics in relation to ecology and civil engineering. Preliminary research reports will be also acceptable, if they are applicable to various fields of ecology and civil engineering.

[2] Presentation types

Please notify your preferred presentation type (poster or oral) in your submission. Note that we might ask you to change your presentation type (poster or oral).

[3] Duration of oral presentation

Each oral presentation would be ca. 15 minutes long (12 minutes for presentation followed by a 3-minute discussion period).

[4] Deadline of application: 17:00 (JST) , June 30 (Mon), 2014

If you wish to give a poster or oral presentation in English, please send your application to Ecology and Civil Engineering Society (tokyo_18th@ecesj.com) by e-mail with the following items.

<Required items on the application form>

1. Full name of a presenter, his or her professional affiliation and membership number.
If the presenter has co-authors, full names of all co-authors, their professional affiliations and membership numbers (if they have) should also be written.
2. Title of presentation
3. Contact address of a presenter:
Postal and e-mail addresses, tel. & fax. numbers
4. Summary of presentation in 7 lines or 150 words
5. Preferred type of presentation (poster or oral)
6. Category of presentation (research report, case study, or other topics)
7. Keywords (about 5 words relating to study sites and materials as listed below)

Study sites: Rivers, lakes, reservoirs, brackish waters, seas, forests, paddy fields, dry farmlands, roads, urban areas, rural areas, etc.

Materials: Ecosystem and landscape, terrestrial plants, terrestrial animals, aquatic plants, plankton, benthic animals (invertebrates), birds, fishes, etc.

Presentations will be sorted into designated sessions based on the contents of submitted summaries. The summary should be made brief and specific for the purpose. The notification of acceptance and the designated presentation type (poster or oral) will be informed by the secretariat of ECES later.

[5] Deadline for abstract submission: 17:00 (JST) , July 18 (Fri), 2014

For each presentation (oral or poster), abstract should be submitted to the secretariat of ECES by the deadline. The manuscript should be prepared in line with the following instructions.

Further instructions for the presenters such as instruction for preparing poster and the presentation schedule will be uploaded to the web site of ECES on August 11 (Mon), 2014.

<Instructions for presentation abstracts>

The secretariat will not review abstracts.

- Please use 2 or 4 sheets of A4 paper.
- Right and left margins should be more than 15 mm, and top and bottom margins should be more than 18 mm.
- The title of your presentation should be one column and centered. The length of the title should be within 2 lines and the font size should be in 14 points.
- Full names of the presenter and co-authors with their affiliations should be inserted right-aligned after inserting one blank column below the presentation title. The font size should be in 12 points.
- The main text should be in 10.5 points. The font should be representative Roman such as Times New Roman.
- Please submit a camera-ready manuscript which includes figures and tables. Please send a PDF of the manuscript as an e-mail attachment to tokyo_18th@ecesj.com. The Printing of manuscript letters should be in black.

[6] Qualification of presenters

Presenters at oral sessions and a main contributor at poster sessions should be the

ordinary member, student member or any people belonging to the supporting member company of the ECES (co-authors need not be ECES members). However, presentations by students who are not ECES members are also acceptable if at least one of their co-authors is an ECES member.

[7]Presentation awards

The Ecology and Civil Engineering Society (ECES) confers "Presentation Awards" at the Annual Meeting to excellent posters and oral presentations. Winners of the Awards will be announced after a general meeting held in September 20 (Sat), 2014.

4. 分科会・自由集会企画募集!

今大会ではテーマを絞って議論を深めるために、分科会や自由集会を開催できる小会場を複数確保しています。議論したいテーマをお持ちの方は積極的にお申し出ください。なお、会場数及び開催時間帯は限られていますので、どうかお早くご連絡いただき(6月30日(月)まで)、ご相談ください。

(連絡先) E-mail: tokyo_18th@ecesj.com

5. エクスカーション

【企画のねらい】

多摩川は首都圏を流下し東京湾に注ぐ河川で、都市における貴重な自然環境、レクリエーションの場となっており、流域の水流実態の解明や保全・再生の取り組みが行われています。また、東京湾に残る干潟は、生物の生息場や干満による物質循環機能を有し、豊富な資源により地域の繁栄にも寄与しており、干潟再生や地域活性のための活用の取り組みも行われています。

多摩川コースでは、多摩川中流域を訪ね、都市域の河川における水循環と自然環境の保全・再生について学びます。小櫃川河口コースでは、自然の干潟が残り、干潟を活用した地域活性の取り組みが行われている小櫃川河口干潟を訪ね、干潟再生の目的と構造を学びます。

【日程(案)】

①多摩川コース

9月21日(日) 9:00 JR羽村駅 集合

羽村取水堰・玉川上水、生態系保全空間、河原再生地、湧水保全地、水辺の楽校、魚道、二ヶ領宿河原堰等を訪問予定

15:00 JR・小田急線 登戸駅 解散

※定員は40名で先着順とします。

②小櫃川河口コース

9月20日(土) 公開シンポジウム終了後移動, 木更市金田海岸の民宿に集合
夕食, 講演会(講師: 金田の浜活性化協議会 金萬智男), 交流会

9月21日(日) 8:30 民宿発 小櫃川河口干潟観察
講演会(講師: 東邦大学名誉教授 風呂田利夫)
15:00 木更津金田バスターミナル又はJR 巖根駅解散

※20日(土)は, 宿泊施設の都合上, 定員は20名で先着順とします。

21日(日)のみの参加も可能です(8:30 現地集合)

6. 懇親会

懇親会は, 第2日目9月19日(金)の研究発表(口頭), 分科会, 自由集会の終了後に行います。
また毎回好評の「全国からのお土産(お酒・おつまみ)」コーナーもご用意しますので, 会員同士の交流・情報交換の場として, ぜひご参加ください。

【日時】

平成26年9月19日(金) 18時ごろから

【会場】

首都大学東京 南大沢キャンパス 国際交流会館内 フランス料理 ルヴェ ソン ヴェール南大沢

住所: 〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京 国際交流会館内
電話: 042-677-3304

7. 大会参加費

〔1〕研究発表会

会員: 6,000円, 非会員: 10,000円, 学生(会員・非会員)3,000円。

参加費には講演要旨集が含まれております。講演要旨集のみ希望の方は, 3,000円で販売しております。

※大学内の学食が営業しており, 駅前にも飲食店はありますが, 別途1,000円でお弁当が用意できます。事前にお申し込みください。

〔2〕エクスカージョン

会員: 3,000円, 非会員: 4,500円, 学生(会員・非会員): 1,500円(昼食代含む)。

※②小櫃川河口コースは, 別途宿泊費(1泊2食付)6,500円+酒代を各自でお支払いください。

〔3〕懇親会

一律：5,000円(予定)。

懇親会費は、当日徴収いたしますが、人数を把握するため、事前にお申し込みください。

8. 参加申込み方法

学会のホームページやチラシよりお申込み下さい。

詳細なスケジュールは、次号(No. 64 8月上旬配信予定)ニュースレターやホームページでご案内いたします。

9. その他

開会期間中の宿泊について、大会事務局として斡旋はいたしません。各自でご手配ください。

託児所について、会場周辺で一時預かりが可能な施設は多くありません。本年度については、応用生態工学会全国大会でのニーズを把握するため、大会参加にあたり託児所の利用が必要な方は、申込時にその旨、ご連絡をください。また、託児所の都合がつかないために参加を見送られた方も、ご一報いただけたら幸いです。

10. お問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL：.03-5216-8401 FAX：03-5216-8520

E-mail：tokyo_18th@ecesj.com

3 第9期応用生態工学会委員会委員決まる

第9期委員会委員が決定しました。委員の任期は2016年3月31日までの2年間です。なお、各委員会の委員長は互選で決定しました。

会誌編集委員会

No.	継続、新規の別	氏名	勤務先組織
1	留任 委員長	鎌田 磨人	徳島大学大学院 教授
2	留任	池内 幸司	国土交通省近畿地方整備局長
3	新任	一柳 英隆	一般財団法人水源環境センター 研究員
4	留任	井上 幹生	愛媛大学理工学研究科 准教授
5	新任	比嘉 基紀	高知大学理学部 助教
6	留任	大森 浩二	愛媛大学 准教授
7	〃	加賀谷 隆	東京大学 助教
8	新任	萱場 祐一	(独) 土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム 上席研究員
9	留任	小出水規行	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所主任研究員
10	新任	佐川 志郎	兵庫県立大学 准教授
11	留任	角 哲也	京都大学防災研究所水資源環境研究センター 教授
12	新任	竹林 洋史	京都大学防災研究所流域災害研究センター 准教授
13	留任	西 浩司	いであ株式会社国土環境研究所 生物多様性計画部長
14	〃	西廣 淳	東邦大学理学部 准教授
15	新任	田代 喬	名古屋大学大学院 准教授
16	〃	東城 幸治	信州大学理学部 准教授
17	留任、担当理事	風呂田利夫	東邦大学 名誉教授
18	留任	星野 義延	東京農工大学農学部 准教授
19	〃	藤井 政人	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 河川環境保全調整官
20	〃	森 誠一	岐阜経済大学経済学部 教授
21	〃	山本 晃一	公益財団法人河川財団 研究所長
22	新任	三宅 洋	愛媛大学大学院理工学研究科 准教授
23	〃	根岸淳二郎	北海道大学大学院 准教授
24	留任	柳井 清治	石川県立大学 教授
25	新任	横山 勝英	首都大学東京 都市環境学部都市基盤環境コース 准教授
26	留任	吉村 千洋	東京工業大学大学院 准教授

普及・連携委員会

No.	継続、新規の別	氏名	勤務先組織
1	留任、委員長	竹門 康弘	京都大学防災研究所水資源環境研究センター 准教授
2	留任	岩瀬 晴夫	株式会社北海道技術コンサルタント 川づくり計画室長
3	新任	佐藤 高広	株式会社復建技術コンサルタント東北支社 計画部環境課長
4	留任	久保市浩右	応用地質株式会社地球環境事業部自然環境部 専任リーダー
5	〃	大川 重雄	株式会社建設技術研究所 北陸支社長
6	新任	柴田 洋二	株式会社環境アセスメントセンター北信越支社企画部 主任
7	留任	佐渡 正	館下コンサルタンツ株式会社 代表取締役社長
8	〃	澤 康雄	株式会社国土開発センター環境事業部 部長
9	〃	高嶋 義和	ジビル調査設計株式会社技術1部 部長
10	〃	中村 達博	株式会社建設環境研究所中部支社技術部 部長代理
11	〃	厨子 和典	株式会社修成建設コンサルタント技術1部 主幹
12	〃	藤谷 俊仁	株式会社建設環境研究所広島支店岡山出張所
13	新任	山原 康嗣	中電技術コンサルタント株式会社環境部 部長
14	留任	川越 幸一	株式会社建設環境研究所高松支店 上席主任研究員
15	〃	酒井 奈美	西日本技術開発株式会社 主任
16	〃	宮良 工	一般財団法人沖縄県環境科学センター総合環境研究所 所長
17	留任	森 誠一	岐阜経済大学経済学部 教授
18	〃	中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館 主任学芸員
19	〃	吉富 友恭	東京学芸大学環境教育研究センター 准教授
20	新任、担当理事	渡辺 綱男	一般財団法人自然環境研究センター 上級研究員
21	新任	仮谷 伏竜	株式会社建設技術研究所北海道支社環境室 主幹

国際交流委員会

No.	継続、新規の別	氏名	勤務先組織
1	留任、委員長	吉村 千洋	東京工業大学大学院 准教授
2	新任	根岸淳二郎	北海道大学大学院 准教授
3	留任	石澤 伸彰	応用地質株式会社東京支社
4	〃	河口 洋一	徳島大学工学部 准教授
5	〃	知花 武佳	東京大学工学系研究科 准教授
6	〃	藤野 毅	埼玉大学理工学研究科 准教授
7	新任	傳田 正利	(独) 土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム主任研究員
8	〃	中村 圭吾	国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究室 主任研究官

9	留任	五味 高志	東京農工大学 准教授
10	留任、担当理事	中村 太士	北海道大学大学院 教授

テキスト刊行委員会

No.	継続、新規の別	氏名	勤務先組織
1	留任、委員長	萱場 祐一	(独) 土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム 上席研究員
2	留任	仮谷 伏竜	株式会社建設技術研究所北海道支社環境室 主幹
3	〃	河口 洋一	徳島大学工学部 准教授
4	〃	関島 恒夫	新潟大学大学院生産環境科学科 准教授
5	〃	藤井 政人	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 河川環境保全調整官
6	〃	西 浩司	いであ株式会社国土環境研究所 生物多様性計画部長
7	〃	三宅 洋	愛媛大学大学院理工学研究科 准教授
8	留任、担当理事	島崎 由美	いであ株式会社内部統制本部 本部長代理

事務局改善 WG

No.	継続、新規の別	氏名	勤務先組織
1	留任、委員長 担当理事	久保田 勝	東北電力株式会社 顧問
2	新任	浅見 和弘	応用地質株式会社地球環境事業部 自然環境部長
3	新任	木内 啓	株式会社建設技術研究所東京本社 次長
4	留任	西 浩司	いであ株式会社国土環境研究所 生物多様性計画部長
5	〃	藤井 政人	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 河川環境保全調整官

情報サービス委員会

No.	継続、新規の別	氏名	勤務先組織
1	新任 委員長	沖津 二郎	応用地質株式会社 応用生態工学研究所長
2	留任	萱場 祐一	(独) 土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム上席研究員
3	新任	白井 明夫	一般財団法人水源環境センター研究第三部 首席研究員
4	新任、担当理事	成田 賢	応用地質株式会社 代表取締役社長

技術援助委員会

No.	継続、新規の別	氏名	勤務先組織
1	留任、委員長	辻本 哲郎	名古屋大学工学研究科 教授
2	留任	江崎 保男	兵庫県立大学自然・環境科学研究所 教授
3	新任、担当理事	角 哲也	京都大学防災研究所水資源環境研究センター 教授
4	新任	関島 恒夫	新潟大学大学院生産環境科学科 准教授
5	〃	高村 典子	(独) 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター長
6	〃	渡邊 康玄	北見工業大学社会環境工学科 教授

将来構想委員会

No.	継続、新規の別	氏名	勤務先組織
1	留任、委員長 担当理事	中村 太士	北海道大学大学院 教授
2	留任	浅見 和弘	応用地質株式会社地球環境事業部 自然環境部長
3	新任	田代 喬	名古屋大学大学院 准教授
4	〃	三宅 洋	愛媛大学大学院理工学研究科 准教授
5	〃	西 浩司	いであ株式会社国土環境研究所 生物多様性計画部長
6	〃	根岸淳二郎	北海道大学大学院 准教授

4 行事開催報告

国際シンポジウム

「流域生態系における放射性物質動態と生物への移行～震災後の流域管理に向けて～」

第8期 国際交流委員会委員長 五味高志

福島原発事故による放射能汚染への対応が急がれる中で、生活基盤の整備や農林水産業などにおける放射能汚染対策へ向けた様々な対応や研究が展開されている。放射能汚染は、日本における喫緊の課題であり、放射能汚染に対して産・官・学がどのように対応・連携していくかが重要となる。福島県や周辺地域においても水系網における放射性物質の動態や生態系への影響について、森林から農地や水田さらには沿岸域に至るまで、様々なモニタリングや研究が実施されている。震災後3年が経過した現在、このようなモニタリングや研究によって水系網から貯水池やダムなどへの放射性物質の蓄積などが明らかにされつつある。そこで本国際シンポジウムでは、関連分野で多くの業

績を積み重ねている、北米やヨーロッパから専門家を招き、応用生態工学的な視点から、放射能汚染に対する環境や生態系の応答、これらの流域管理手法などについて、「流域生態系における放射性物質動態と生物への移行～震災後の流域管理に向けて～」という切り口で、最新研究により明らかになった環境中での放射性動態やの紹介や今後の研究や対策に関する意見交換を行った。本国際シンポジウムは応用生態工学会国際交流委員会により企画され、2014年2月28日（金曜日）の午後に東京農工大学府中キャンパス2号館に於いて約100名の参加者が集い、開催された。

まず、アメリカ合衆国ロスアラモス国立研究所のジェフリー・ウイッカー氏による「放射能汚染地域生態系の適応的管理 (Adaptive Management)」の話題提供があった。ウイッカー氏は、アメリカの放射性汚染地域における事例を紹介しながら、単にターゲットとして除染や資源管理のみに焦点を当てるのではなく、順応的管理として、管理とその効果の評価を行うなどで、除染効果の検証、地域住民などの意見の考慮、起こりうる攪乱の影響評価、経済性の評価など行いつつ、予測モデルなどで検証していくことが、汚染地域における放射性物質動態の評価や資源管理を行う上で重要であることを示した。次に、カナダ原子力公社のデビット・ローワン氏は「淡水生態系における放射性セシウム動態：なぜ生物種間でのセシウム蓄積はばらつくのか？」というタイトルで話題提供いただき、カナダにおける水系の放射性物質汚染の事例から、水系生態系における魚類までの汚染実態、生物濃縮の評価とモデル化、カリウム動態との相互関連の重要性に関する報告が行われた。

2件の発表の後に、ポスターセッションがおおよそ1時間開催され、学生や若手研究者から17件の発表があった。国内で実施されている研究を中心とし、農地や森林地域の放射性セシウム汚染の実態、陸域や水域生態系の放射性セシウムの動態評価についての最新事例報告があり、海外からの研究者を交えた活発な意見交換が行われていた。その後、スウェーデンストックホルム大学のカロライナ・スターク氏からの講演では「両生類から見た放射性物質のリスク」について最新研究成果が発表され、チェルノブイリ事故でスウェーデンにもたらされた、放射性汚染の実態と、汚染後30年経過後の湿地などでのホットスポット化による蓄積の実態、そこに生息するカエルへの蓄積の実態や遺伝子への影響の評価について報告が行われた。

シンポジウムの後半では、上記3名を迎え、震災後に放射性物質の汚染を受けた地域における流域資源管理に関するパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは、一般参加者からの質問や質問票も交えて、生物への影響、汚染後の攪乱の評価の重要性や対策、地域における人口動態と今後の自然資源や森林管理などについて充実した意見交換を行うことができた。本シンポジウムの講演内容やパネルディスカッションの詳細については、応用生態工学会誌に報告として、掲載予定である。



写真1 会場からの質問に答えるローワン氏



写真2 ポスターセッションの様子

5 行事開催予定

5-1 第6回 応用生態工学会全国フィールドシンポジウム in 高知 高知の川と自然再生—アユをとりまく土佐の人—

今年の全国フィールドシンポジウムは高知で開催し、「アユ」をめぐる高知の取り組みに迫ります。高知はアユの資源価値が高く、そのため持続的な利用を目的に行政・研究者・市民（釣り人）が各々取り組んでいます。フィールドツアーでは四万十川の自然再生を訪ね、シンポジウムでは「アユをとりまく土佐の人」と題し、高知の取り組みを紹介します。来たるべき南海トラフ巨大地震を踏まえながらも、豊かな高知の自然を見つめ直し、川の自然再生や川と人の関わりについて議論したいと思います。

開催時期：平成26年6月13日(金)～6月14日(土)

6月13日(金曜日) フィールドツアー

- 9:00～ 高知駅発 仁淀川・高知海岸を視察
- 13:00～15:30 四万十川自然再生箇所視察 屋形船で四万十川中流部視察
- 15:30～ 四万十川中流部をまわり高知へ
- 18:30～ 懇親会

6月14日(土曜日) 高知市文化プラザかるぼーと 11階 大講義室

シンポジウム「アユをとりまく土佐の人」

コーディネーター：河口洋一(徳島大)

13:00～14:50 一般講演

- 1)-1 四万十川の自然再生ーアユの瀬づくりー
高橋 弘(中村河川国道事務所)
- 1)-2 四万十川における自然再生事業「アユの瀬づくり」と菜の花祭りの共存を考える
石川慎吾(高知大・理)
- 2) 天然アユを増やす取り組みの中から見えてくるもの
高橋勇夫(たかはし河川生物調査事務所)
- 3) 清流巡り利き鮎会・15年の歩み(仮題)・・・30分
内山顕一(高知県友釣り連盟代表)

14:50～15:00 10分休憩

15:00～16:30 パネルディスカッション(講演者、コメンテーターを交えて)

コメンテーター：竹門康弘(京大・防災研)、武藤裕則(徳島大・工)

主催：応用生態工学会 普及・連携委員会

協賛：一般社団法人四国クリエイト協会

後援：国土交通省四国地方整備局(予定)

一般社団法人建設コンサルタント協会四国支部

協力：国土交通省四国地方整備局中村河川国道事務所

国土交通省四国地方整備局高知河川国道事務所

実施主体：フィールドシンポジウム in 高知実行委員会

実施責任者：川越 幸一

参加費：フィールドツアーはバス、屋形船とお弁当で6000円程、懇親会費は5000円程を予定しています。シンポジウムは資料代として1000円(学生は無料)

参加申し込み連絡先：所属・氏名・連絡先・参加内容(フィールドツアー、シンポジウム、懇親会)を明記し、下記までEメールでお申し込みください。

フィールドシンポジウム in 高知実行委員会 川越 幸一

Eメール : kawagoe@kensetsukankyo. co. jp

申し込み期限 : フィールドツアーはバスの関係から5月末日を一応の期限とします。

シンポジウムは当日まで可としますが、人数把握のため事前に申し込み頂ければ幸いです。

5-2 平成26年度 応用生態工学札幌セミナー

「本来の川を取り戻すために…その9, “川のリサイジング”」(仮)

時期 : 平成26年8月下旬予定

場所 : 札幌市内

応用生態工学会札幌では、昨年度、「水・土・緑(生物)をレジームで捉える」をテーマに、「レジーム(体制, 仕組み, 基本構造)」といった大局的な見方で、砂礫河川のメカニズムや再生に向けたシンポジウムと現場視察(十勝川水系札内川)を行いました。

今年度は、自然や社会のシステムが大きく変化していることを認識し、かつ、今後の変化を見据えて、「リサイジング(resizing)」をキーワードに自然再生や河川管理の在り方について考えていきます。例えば、土地利用、流況や土砂供給、河畔林の生育条件…等々が変化した現代(変化するであろう未来)の“川の形状”を話題にしたいと思っています。また、第一線を退いた方をお迎えし、「次世代に語り継ぎたいこと」の(ような)題で、基調講演を予定しています。

5-3 応用生態工学会 第2回 北信越事例発表会

「応用生態工学会 第2回 北信越事例発表会」 事例発表大募集!

～大会に気兼ねしている人, 気軽にご参加ください～

日時 : 平成26年11月14日(金) 9:30~17:30

会場 : 富山県立大学 大講義室 富山県射水市黒河 5180

[1] 発表資格

発表者は、応用生態工学会の会員・非会員を問いません。ただし、発表者が非会員の場合は、連名者に正会員・学生会員および賛助会員法人に所属する個人が1名以上いることとします。

[2] 発表内容

発表に応募できる講演内容は、応用生態工学に関する事例報告、研究報告およびその他です。当該

発表の内容が、現場のさまざまな事業・活動にどのように応用できる知見であるかに触れていただければ、報告が基礎的内容であってもかまいません。また、分野は河川系のみではなく、下記キーワードに示すようにあらゆるフィールドを対象とします。

〔3〕発表方法

発表は、次の3種とします。いずれを希望するか明記して下さい。応募状況によっては、実行委員会で変更をお願いする場合があります。

- (1) **一般口頭発表**：研究報告・事例報告等内容は問わず、全国大会と同様の内容とします。
- (2) **審査対象口頭発表**：原則として事例報告とします。審査委員会による事前審査、発表後の審査を経て表彰の対象とし、発表時間、討論時間も長くとしています。学会誌への投稿を目標とされている発表や優秀な発表は、希望があれば発表論文内容の向上に関して、審査員が相談・指導に応じます。

- (3) **ポスター発表**：ポスター発表は発表概要及び要旨を提出する必要はありません。なお、要旨集に掲載を希望される場合は、口頭発表と同様に発表要旨を提出して下さい。

〔4〕発表時間

発表時間は以下のとおりとしますが、いずれも発表数により変更する場合があります。

- (1) **一般口頭発表**：1課題当り20分(発表12分、討論8分)程度
- (2) **審査対象口頭発表**：1課題当り40分(発表20分、審査員質疑10分、一般討論10分)程度
- (3) **ポスターセッション**：コアタイム12:30～13:30の1時間

〔5〕発表申込 (9月5日(金)まで)

発表を申し込まれる方は、以下の内容を記入したE-mailをお送り下さい。

－ 申込記入事項 －

- ① **発表者名および連名者名と各々の所属(会員番号)**
(発表者がわかるように、●等で明示してください)
(会員番号：発表者・連名者が非会員である場合、番号は不要)
- ② **発表題目**
- ③ **連絡先** (〒、住所、氏名、TEL、FAX、E-mail)
- ④ **発表概要** (和文200字程度)
- ⑤ **希望する発表方法** (「一般口頭発表」or「審査対象口頭発表」or「ポスター発表」)
- ⑥ **事例報告、研究報告、その他の別**
- ⑦ **キーワード** (対象地域・対象生物を含め5つ程度)
[対象地域の例] 河川、汽水域、湖沼、海域、森林、水田、畑地、道路、都市、農村、公園等
[対象生物の例] 生態系、陸上植物、陸上動物、水生植物、底生動物、鳥類、魚類等

提出いただいた概要をもとに発表の振り分け、順序を決定致しますので、簡潔かつ具体的な内容を可能な限り明示して下さい。後日事務局より受付及び発表方法の確認連絡を致します。

〔6〕発表要旨

原稿の提出は10月20日(月)17:00までを厳守して下さい。

発表者は、発表要旨原稿（A4版2頁 or 4頁）を期日までに事務局へ提出。原稿は下記の要領に従って作成して下さい。

なお、発表要領および関連スケジュールを、10月24日（金）に発表者にメールで連絡致します。

— 発表要旨原稿作成要領 —

発表要旨については査読を行いません。要旨集にもその旨を記載致します。

- ・ A4版縦、2頁又は4頁
- ・ 左右15mm以上、上下18mm以上余白
- ・ 横一段組み、中央に「講演題目」を和文にて、14ポイント程度の文字、2行以内で記入
- ・ 題目の下1行空け右寄せで「講演者名、連名者名、各々の所属」を12ポイント程度の文字で記入
- ・ 本文は、10.5ポイント・明朝
- ・ 原稿はそのまま印刷できるイメージのPDFファイルとして作成し、E-mailに添付して eces-toyama@tachishita.co.jp 宛にお送り下さい。

なお、原稿はカラーも可としますが、要旨集は白黒印刷致します。

※ 要領は、学会全国大会と同じ内容となっています。

〔7〕発表賞

審査対象口頭発表を対象として、優秀と認められる発表について表彰致します。

審査の観点は、応用生態工学会としての将来的な発展性・応用性・有効性・プレゼン力(説明資料等わかりやすさ)などとします。

【全ての送付先・問い合わせ先】

◇応用生態北信越大会実行委員会事務局◇

〒939-3553 富山県富山市水橋的場234 館下コンサルタンツ株式会社 (担当：瀬川)

TEL : 076-478-0090 FAX : 076-478-1190

5-4 2014年度年間行事予定

	2014年度(平成26年度)開始
2.21~5.20	海外学会派遣研究者の公募、再公募
4.16	応用生態工学会東京大会第2回実行委員会 (首都大学東京大沢キャンパス)
4.25~4.30	第71回理事会(メール会議)第9期委員依頼を了承
5.29	ニュースレター64号 発行
6	テキスト刊行委員会 (麴町:応用生態工学会事務所)
6.13~14	第6回 応用生態工学会全国フィールドシンポジウム in 高知 6月13日 フィールドツアー 仁淀川、高知海岸、四万十川 6月14日 シンポジウム「アユをとりまく土佐の人」(高知市文化プラザかるぼーと11階 高知中央公民館大講義室)
6.14	普及・連携委員会 (高知市)
6.14	<後援> シリーズ「大槌学の地平から考える復興」シンポジウム (大槌町)
6.21	第60回幹事会 (麴町:応用生態工学会事務所)
6.21	会誌編集委員会 (麴町:応用生態工学会事務所)
7.23	第4回遠賀川中島自然再生研究会 (遠賀川水辺館 直方市)
8.	ニュースレター65号 発行予定
8.	理事会開催予定
8.下旬予定	平成26年度 応用生態工学札幌セミナー 「本来の川を取り戻すために…その9, “川のリサイジング”」(仮)
8	会誌「応用生態工学 Vol. 17-1」(発行予定)
9.18~21	応用生態工学会東京大会 (首都大学東京 南大沢キャンパス 12号館) 9月18日(木):研究発表(ポスター),分科会,自由集会 9月19日(金):研究発表(口頭),分科会,自由集会,懇親会 9月20日(土):午前:役員会・総会等,午後:公開シンポジウム 9月21日(日):エクスカージョン
9.19~20	理事会、幹事会 (首都大学東京 南大沢キャンパス 12号館)
10.24~25	北信越ワークショップ in 長野 平成26年10月24日(金)・ワークショップ(講演及び報告、ポスターセッション等) 平成26年10月25日(土)・・・現地見学会 テーマ 『上下流の連続性を考える』 ※今回は千曲川流域の河川を中心とする

11.14	応用生態工学会第2回北信越事例発表会 (富山県立大学 射水市)
12.上旬予定	第2回応用生態北信越技術研究会 (富山市 神通川)
12	幹事会
12	ニュースレター66号 発行予定 (東京大会特集)
12	会誌「応用生態工学 Vol. 17-2」発行予定
2.	2015年度海外学会派遣者募集
2	理事会
2.21	ニュースレター67号 発行予定
2014年度終了	

書評 (吉村千洋)

水辺と人の環境学 (上、中、下)

編者 小倉紀雄、竹村公太郎、谷田一三、松田芳夫

朝倉書店 2014年1月

各巻定価 (税抜) 3500円

ISBN 978-4-254-18041-1 (上)、978-4-254-18042-8 (中)、978-4-254-18043-5 (下)

本書には水辺の生態学とその人との関わりがバランスよく盛り込まれており、読みごたえのある解説書となっている。各巻では水辺の生態学とそれに対する人の視点 (環境管理) の2部構成となっており、両者の視点での記述が3巻を通して並行する形で編集されている。よって、自然生態系を理解した上で水辺の環境管理について考えることもできるし、水辺の環境管理を中心に読み進めて生態学的な知見を補完的に確認するという読み方もできる。複数の著者が各専門分野を解説しており、内容構成や編集にも多大な努力が払われたことが伝わってくる著書であり、その努力が本書の価値を一段と高めている。全体を通して平易な文面であるため一般の方や大学生でも十分に活用できる内容であり、さらに重要な知見が参考文献としてリストアップされているため解説書や専門書として活用することもできる良書である。

上巻では主に源流域や上流域が対象となっており、“川の誕生”がテーマとなっている。日本の川を地理的観点や水循環から理解できると同時に、上流域に形成される典型的な河川生態系、そして、森林管理や砂防など、河川上流域と人間社会の関わりを学ぶことができる。中巻は主に中流域を扱っており、テーマは“人々の生活と水辺”。中流域には日本の河川生態系の特徴が強く現れていると同時に、人の生活や国土管理とも関係が深い部分であり、それらの基礎知識を得ることができる。そして、下巻では下流域、デルタ、沿岸域が対象となっており、テーマは“川から海へ”。河口や干潟を含む下流域の生態系の特徴がまとめられており、公害も含めて日本の近代化による河川下流域の変化や都市と川の深い関わりを学ぶことができる。

さらに、追加的にコラムが書かれているが、このコラムが地元や生活者の目線でおもしろい。例えば“江戸期の大和本草に見る河川生物”、“サンショウウオ漁”、“川漁師たちにまつわる奇談、珍談”など、その土地に足を運ばないと聞けないような貴重な話も盛り込まれている。川にまつわる生活文化を垣間見ることができ、いかに水辺環境が人の生活に密接に関わっているかが伝わってくる。

シリーズ全体では、水辺の主要な動植物である底生動物、魚類、藻類、水生植物、河畔林、鳥類などがバランスよく記述されている。各巻で見ると対象とされている生物群集の記述量に若干の偏りが見られるが、河川生態系の学術的な理解は十分に進んでいるとは言えず、逆にこの書籍の主な構成内容が日本の河川生態学の最新の知見を反映しているとも考えられる。

その意味でも、水辺環境に関心がある方にとっては手元に置いておきたい価値の高い解説書である。

6 事務局より

第9期役員（理事、幹事、監事）は昨年9月の大会ですでに決定していますが、委員会委員の選任時期は半年遅れの4月に設定しています。これで新しい執行体制が整いました。

さて、2014年度の東京大会の公開シンポジウムは「地下を流れる水・・・」がテーマです。新しい世界を見ることが出来る状況を想像しています。

いっぽう、例年地域を代えて開催している「フィールドシンポジウム」は、今年は四国、高知、四万十川で開催します。フィールドは研究者にとっても、技術者にとっても原点ですが、私は四万十川には2度の赴任経験があり、応用生態工学を意識し始めた原点でもあります。会員の皆様にとって、開催場所の条件は良くはありませんが、四万十川を視る絶好の機会ととらえられることを、事務局からも願っています。

事務局長 小川鶴蔵

[2014年4月1日現在 現在会員数]

個人会員

名誉会員 : 4名
正会員 : 961名
学生会員 : 105名
合計 : 1,070名

賛助会員

組織数 : 33組織
口数 : 48口

[2014年4月1日現在 LEE購読者数]

正会員 : 92名
学生会員 : 3名
合計 : 95名